

## 土木系学科・専攻の変遷について

京土会会長 森澤眞輔

ここ10年ばかりの期間に、学部・大学院を巡る大学の制度や専攻・研究室の構成等が大きく変化しました。研究室の名称も、大きく変化しています。名称を聞いただけでは、その歴史(昔の名前)が直ぐには浮かんでこないことがあります。多くの卒業生各位から「私の研究室(〇〇研)どうになりました? 今はどこに?」、「最近の大学はどうなったの? 何度説明されても、よく分からない」等のご指摘をいただきます。間もなく、『京大土木百十周年記念誌』が刊行されますから、研究室の変遷の詳細については同記念誌を参照して戴くとして、お答えになるかどうか懸念しつつ、学部の学科、大学院の専攻の変遷の概要を図-1に要約してみました。

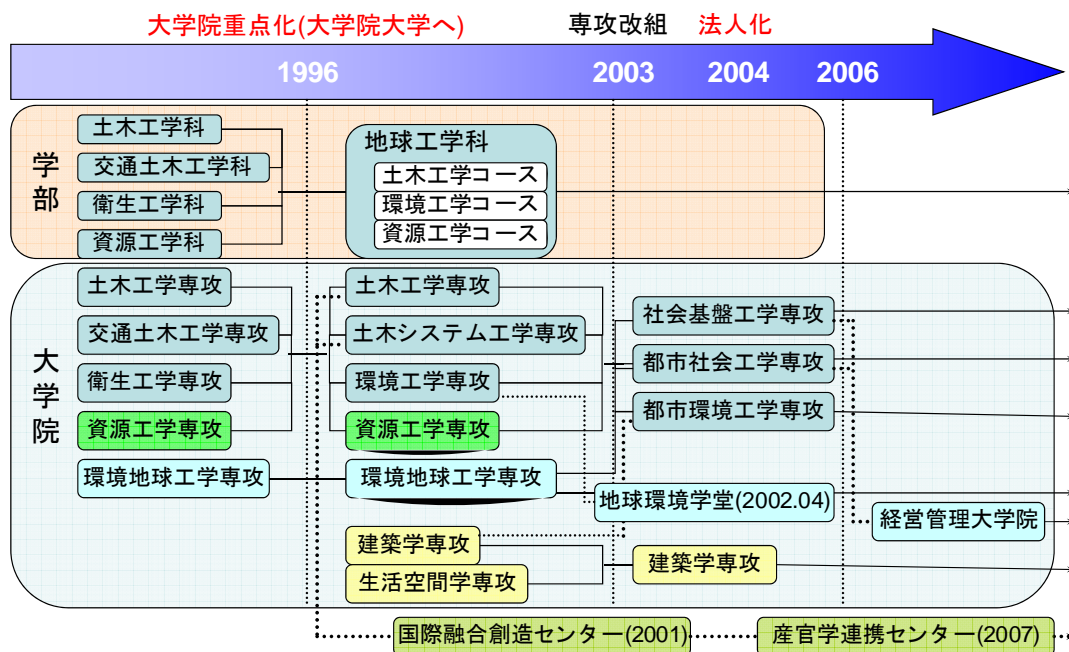


図-1 土木系学科・専攻の変遷

1996年、学部が改組され、土木系の土木工学科、交通土木工学科及び衛生工学科の3学科と資源工学科が「地球工学科」に統合されました。入学試験は地球工学科として行われ、学生は3回生に進級する折りに土木工学コース、環境工学コース、資源工学コースのいずれかに進みます。同年、大学院が「重点化」され、土木工学専攻、交通土木工学専攻、衛生工学専攻の「土木系専攻」が土木工学専攻、土木システム工学専攻、環境工学専攻に改組されました。以後、「土木系専攻」は、学科の名称を用いて「地球系専攻」と通称されるようになりました。2002年には、環境工学専攻、環境地球工学専攻を含む地球系専攻の講

座が参画することにより、学部を持たない新研究科「地球環境学堂・学舎」が創設されました。翌2003年に地球系専攻と資源工学専攻は建築系2専攻と連携し、新たに社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻に改組され、新「地球系専攻」として現在に至っています

学科、専攻や研究科等の変化に加えて、大学を巡る制度にも大きな変化が見られました。その概要を図-2に示します。1996年に大学院が重点化され、京都大学はいわゆる「大学院大学」になりました。教官の所属が学部から大学院に移されました。これに伴い、教授、助教授、助手等の教官の名称が大学院教授、大学院助教授、大学院助手等と呼ばれるようになりました。1人の教授が1名の助教授と2名の助手の補佐を得て1つの研究室を担任する長い歴史を有する「講座制」が廃され、いわゆる「大講座制」に移行しました。複数の教授が1つの講座を担当する「大講座」が創設され、大講座には(改変前の「講座」に相当する)複数の「分野」と呼ばれる組織が設置されています。現在では、講座は、専任講座、基幹講座、協力講座に区分されています。専任講座は、原則として1名の教授、1名の助教授、2名の助手で構成され、大学院の教育・研究に専任すると位置づけられています。専攻には少なくとも1つの専任講座が置かれています。基幹講座は「大講座」に相当し、複数の分野で構成され、それぞれの分野には原則として1名の教授、1名の助教授、1名の助手が属します。基幹講座は、大学院と学部の教育・研究を担当すると位置づけられています。ただし、現状では、専任講座と基幹講座が担当する教育研究の内容に差異はありません。協力講座は、研究所等の研究室で大学院・学部の教育に協力戴く講座です。

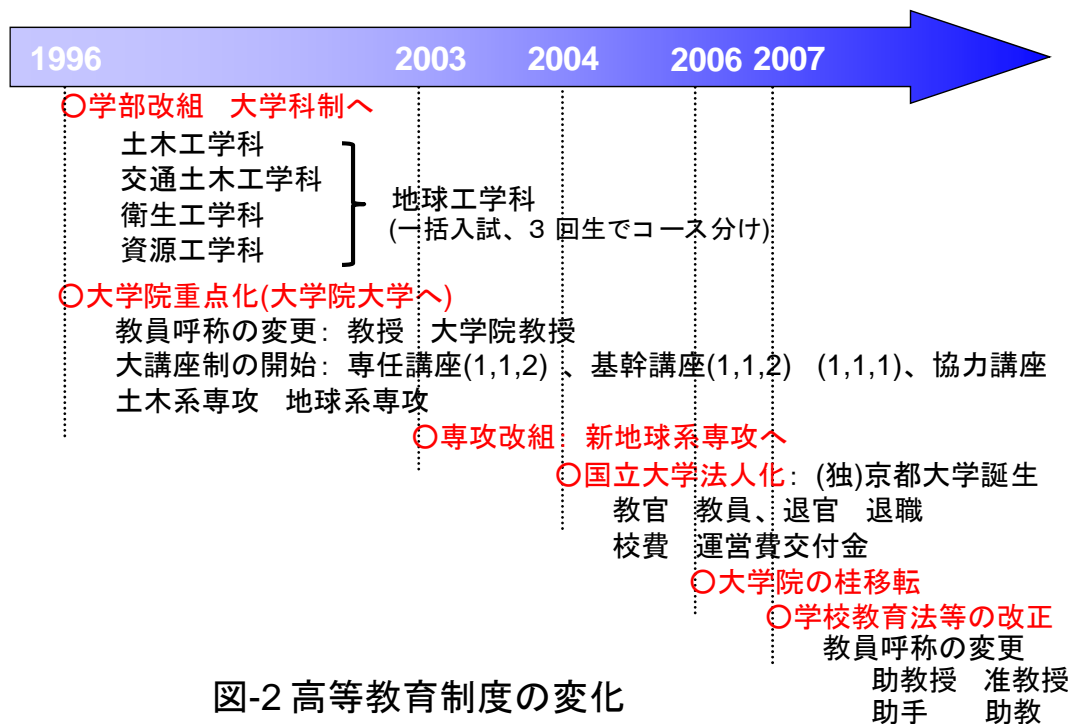


図-2 高等教育制度の変化

2004年、国立大学が法人化され、京都大学は独立大学法人京都大学になりました。学生定員等の項目を除き、大学の自律的決定権が拡大し、その実質化が進められています。それまで国家公務員であった京都大学の教師の呼称が「教官」から「教員」に変更され、「定年退官記念祝賀会」は「定年退職記念祝賀会」と呼ばれるようになりました。国から交付される経費は「国立大学校費」ではなく「運営交付金」と呼ばれ、教員数を規定する「定員」の概念が経費面では廃止されています。京都大学では旧来の方式が維持されていますが、教員数（定員）ではなく、人件費の総額で教員数を管理する体制に移行したことになります。

2006年8月には、地球系専攻が桂キャンパスCクラスターへ移転しました。学部の地球工学科は吉田キャンパスに居ますが、今出川通り沿いの旧土木総合館ではなく、主として旧電気系の建物などで講義を行っています。旧土木総合館の主要部分は、耐震工事によってその外観を大きく変え、人文科学研究所が使っています。昔の155教室（階段教室）や赤レンガの土木旧館はほぼそのままの形で残っており、地球系の講義や関係教員の居室に使われていますが、全学の管理施設となりました。学部学生のうち3回生までは吉田キャンパスにありますが、4回生以上は、研究室配属と同時に、桂、吉田、宇治の3地区に分かれることになりました。

2007年には、学校教育法、大学院設置基準等の法令が改正され、大学教員の呼称が「教授」、「助教授」、「講師」、「助手」からそれぞれ「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」、「(新)助手」に変更されました。「助教」は、教授や助教授を補佐する者ではなく、教授や助教授と同じく研究・教育を担当する者と位置づけられました。以来、「京都大学大学院准教授、同助教」等の職名が使われるようになりました。